ホンダ、グーグルと自動運転で共同(きょうどう)研究　米で実走実験へ

ホンダは２２日、人がまったく運転する必要のない「完全自動運転」について、米ネット検索大手グーグルと共同研究を始める、と発表した。ホンダが提供する車にグーグルの人工知能（ＡＩ）などを搭載（とうさい）。米国内で実走実験を繰り返し、自動運転のノウハウを共有する。

ホンダの開発子会社、本田技術研究所と、グーグルの持ち株会社傘下で自動運転の開発を担う子会社のウェイモが、共同研究を始める覚書（えき）を交わした（かわした）。ウェイモの自動運転用のセンサーやＡＩをホンダ車に搭載。ワシントン、カリフォルニア、テキサス、アリゾナの４州で走らせ、ＡＩの開発に必要なデータなどを集める。どんなデータを共有するかなど、詳細は今後、両社の技術チームで詰める（つめる）。

ホンダは、高速道路に限った自動運転を２０２０年ごろに実現させる目標を掲げている（かかげている）が、トヨタ自動車などに比べると開発資金に限界がある。自動運転用ＡＩの開発で先行するグーグルと組むことで、研究開発の一部を補う（おぎなう）狙いがある。

グーグルは、走行実験で自動運転を学ばせたＡＩを核にした完全自動運転システムを、自動車メーカーなどに売り込むことを狙っているとみられる。今年５月には、フィアット・クライスラー・オートモービルズ（ＦＣＡ）とも提携し、同様の共同研究を進めている。

大みそか（大晦日）

＜解散秒読み＞識者が語る「アイドル」ＳＭＡＰが残した物

平成という時代をトップアイドルとして疾走してきた「ＳＭＡＰ」が１２月３１日をもって、グループとしての活動にピリオドを打つ（うつ）。ＣＤデビューから四半世紀、１９８８年のグループ結成（けっせい）から数える（かぞえる）と２８年間もバラエティーやドラマ、音楽、映画などさまざまなジャンルで活動し、「国民的アイドル」に育った（そだった）グループの不協和音が発覚してから約１年。解散時期が刻一刻と近づくが、メンバーの口は一様に重く、揣摩臆測（しまおくそく）を呼んでいる。私たちは一連の解散騒動（そうどう）をどのようにとらえればいいのか。「これほど長く第一線で活躍したアイドルグループはいなかった。きっとこれからも出ないだろう」。こう口をそろえる各界の有識者らのインタビューを通して、彼らの足跡と展望を考えた。

「詳しい内情（ないじょう）は知りません。自分が後輩について中途半端に話すことは、とても失礼なことだと思う。一つだけ言えるのは、結成から２８年間も第一線で活躍するアイドルグループなんて、これまでもなかったし、これからも出てこないでしょう」。かつてＳＭＡＰと同じジャニーズ事務所に所属し、８０年代後半から９０年代前半にかけてローラースケート姿でさっそうとトップアイドルに登りつめた「光ＧＥＮＪＩ」の元メンバー、大沢樹生（みきお）さんは慎重に言葉を選びながら、彼らの歩み（あゆみ）をたたえた。

トップに君臨（くんりん）し続けることの難しさは、トップにいた者にしか分からない。

大沢さんは光ＧＥＮＪＩとして７年間活動し、９４年に俳優としてステップアップするために脱退（だったい）した。当時、メンバー間の「不仲」がマスコミに取りざたされたが、「本当に不仲だったら７年間も一緒に活動できません。当時書き立てられたほど、仲が悪かったわけではないです」と振り返る。近年は元メンバーと共演する機会も増えている。

今年１月、メンバー数人の脱退などがスポーツ紙で報じられ、公になった解散騒動－－。１月１８日、フジテレビ・関西テレビ系「ＳＭＡＰ×ＳＭＡＰ（スマスマ）」の生放送で５人が並んで「謝罪」し、木村拓哉さんが「前を見て進みたい」と画面を通じてファンに語りかけて、一時的に解散は回避された。しかしＳＭＡＰを育てた女性マネジャーの退社をきっかけに、再びスポーツ紙や週刊誌をにぎわすようになる。真相が藪（やぶ）の中のまま、８月１４日未明、今年限りでの「解散」が発表された。

◇「時代の変わり目」感じた解散騒動

「日本のアイドル史の中でもナンバーワン。お疲れ様ということに尽きる（つきる）。でも終わり方に対して、もっと良い形で花道を作れなかったのか」。こう話すのはアイドル評論家の中森明夫さん。１月の生放送での謝罪は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）上で「公開処刑」とも指弾され、ファン以外からも「痛々しい（いたいたしい）」との声が聞かれた。中森さんの問いかけは、芸能マスコミにも向けられる。「本当なら、芸能リポーターが突撃（とつげき）する場面でしょ。ワイドショーのコメンテーターも（他の芸能案件と違って）ＳＭＡＰについては何も言わない。一般の人々と言葉が乖離（かいり）している」

中森さんは、２００３年３月に発売され、最大のヒット曲となった「世界に一つだけの花」の歌詞になぞらえながら、こう続けた。「彼らが体現してきた『ＳＭＡＰイズム』は平成最良の精神です。日本は高度経済成長からずっと『ナンバーワン』になる思考でやってきた。それが９０年代に入ってバブルがはじけて、９５年にオウム真理教事件や阪神大震災もあって社会不安が起き、経済的にも長期停滞（ていたい）に突入（とつにゅう）した。この２０年くらいは『オンリーワン』で楽しくできるじゃないかという感じだったと思う。たまたま、天皇陛下の退位問題が出た今年、その終わりを感じた」。こうした論考からは、一アイドルの解散にとどまらず、時代が大きな転換期に直面していることが浮き彫り（うきほり）になった。

◇絶大な人気の背景にあった「個」の力　引き継がれたメカニズム

なぜ彼らは、ここまでお茶の間に愛されるのか－－。最大の理由は、５人が独自（どくじ）のキャラクターを持つのが強みであると指摘した有識者が多かった。

８０年代以前のアイドルは、きらびやかな衣装で統一され、メンバー全員がそろった形での活動がメインだった。しかしＳＭＡＰは違った。それぞれがテレビなどのレギュラー番組を持ち、そろってメディアに登場するのは週１回のスマスマが中心。衣装もバラバラなことが多く、「自然体」を貫いている。

「ＳＭＡＰのブランド力を増大させていくための戦略と考えれば分かりやすい」と指摘するのは、宣伝会議取締役の田中里沙さん。定番のお菓子に風味を増やしてブランドの魅力を増やすような「ブランドエクステンション（ブランド拡張）」と呼ばれる手法である。かつてなかった取り組みはマーケティングの観点からも理にかなっており、「嵐」など後輩たちに引き継がれるようになったという。

長年にわたってジャニーズ事務所所属アイドルを講義で取り上げている明大法学部非常勤講師の関修さんも「ＳＭＡＰは中居（正広）君が司会で活躍し始めたのをきっかけに、各メンバーが外へ、外へと活動の場を広げていくことでマニアックではない、ライトなファン層を増やし続けた。（彼らの後に続く）Ｖ６、ＴＯＫＩＯ、嵐なども２０年前後にわたって長く活動している。ＳＭＡＰが新しいアイドルの形の先駆けとなった」と見る。

◇５人だからこそ名曲に　ファンの思いは届くのか

ファンはグループの存続を願って、有志が９月下旬から署名活動を開始。１２月に入り、３７万筆ものファンの思いがジャニーズ事務所に届けられたが、事務所側は「これまでも数々の存続に向けた活動の方向性をメンバーに提案してまいりましたが、本人たちの強い意志を崩すまでに至らず、グループ存続が困難であるということを、苦渋の決断で受け入れた次第です」と否定的だった。

「世界に一つだけの花」が高校音楽の教科書にも掲載された話は有名だ。そのＣＤを購入する通称「花摘み」と呼ばれる運動も続く。発起人は不明だが、今年に入って既に４０万枚以上を売り上げ、目標とされる累計３００万枚も突破（オリコン調べ）。「およげ！たいやきくん」（子門真人）、「女のみち」（宮史郎とぴんからトリオ）に次ぐシングル売り上げ歴代３位となった。

音楽評論家の富澤一誠さんは「歌唱力がずぬけて優れていたとは思わないが、ＳＭＡＰが歌ったからこそ名曲になった曲は多い。『いい曲』がイコールで『いい歌』になるわけではない。それにふさわしい歌手が歌って初めていい歌になる」と言う。５人が同じメロディーを歌いあげる「ユニゾン」中心の歌唱は、９０年代に通信カラオケが普及したことも追い風になり、「みんなで歌いやすい」ＳＭＡＰの曲は愛唱されてきた。いわば、５人は時代の申し子だったのである。

解散後、５人がそろう場面があるのかは誰も分からない。せめて大みそかのＮＨＫ紅白歌合戦に出演して「有終の美を飾ってほしい」と期待する声は少なくないが、状況は不透明だ。

◇当面は盤石な活動　解散が「チャンス」の可能性も

「ＳＭＡＰ」という金看板がなくなっても、５人それぞれが芸能の第一線で活躍する状況は当面続きそうだ。

来年１月スタートの連続テレビドラマで木村さんが「Ａ　ＬＩＦＥ～愛しき人～」（ＴＢＳ系、１月１５日夜９時スタート）、草なぎ剛さんが「嘘（うそ）の戦争」（フジテレビ系、１月１０日夜９時スタート）に主演。いずれのレギュラー出演番組も「ＳＭＡＰ」を想起させるタイトルの変更はあっても、継続されるものがほとんどだ。

「光ＧＥＮＪＩ」を脱退し、あえて独りの道を選んだ大沢さんは「４０代半ばで新たな道を進むのは大変なこと。アイドルに限らず、普通の会社員でも『ずっと勤めてきた会社を辞めて、新しいことにチャレンジしたい』と言い出したら、間違いなく家族が大反対をするでしょう。彼らがこれまでやってきたことを誰かがマネしようとしても、簡単にできるわけがない。後輩ですけど、すごくリスペクト（尊敬）しています」とエールを送る。苦難の道を歩んだ経験は今、俳優・映画監督としてキャリアに生きているという。

批評誌「ＰＬＡＮＥＴＳ（プラネッツ）」編集長でサブカルチャーに精通する評論家の宇野常寛さんは「（解散が）日本のエンターテインメント界に地殻変動をもたらすチャンスだ」と期待する。テレビ中心だった活動から、従来消極的だったネット配信を中心とする活動にまで踏み込むことができれば、多くのファンがついてくるのではないかと見る。

ＳＭＡＰで始まり、ＳＭＡＰで終わった感のある２０１６年。１年後、彼らはどんなふうに語られているだろうか。

１日を５０円で売る東大生　「最高の留年」で得た出会い

「１日を５０円で売る」「ハロウィーンの渋谷に『童貞』と書かれたＴシャツで繰り出す」など、体当たり企画の数々に挑戦している、東京大学２年生でライターの高野りょーすけさん（２０）。女子にモテたいがためにゲームを絶って勉強に明け暮れた日々や、入学後の様々な体験から見えてきたものを語ります。

中学時代はゲームで遊びまくっていました。帰宅部だったので、授業が終わったらすぐ家に帰って、どこかのニートの友達とネットでつながって。チャットしながら、ひたすらオンラインゲーム。２ちゃんねるにはゲームが強い人が紹介される「強者さらしスレ」というのがあって、そこに自分のＩＤを載せることだけが目標でした。

そんな感じだったので、成績もビリから数えた方が早いぐらい。見かねた兄から「ゲームばかりじゃイカンぞ」と怒られまして、中２の途中ぐらいから徐々に勉強するようになりました。

中高一貫校だったのですが、高校受験がない代わりに、中３の２学期に総まとめテストがあって、成績上位の人は名前が廊下に張り出されるんです。当時好きな女の子がいて、ここに名前が載ればアピールできるんじゃないかと夏休みに猛勉強しました。結局、学年１位はとれたものの、まったくモテることもなく、その子とは卒業までに１、２回しか話せませんでした（笑）。

ただ、そこから勉強がアイデンティティーというか、自分を支える要素の一つになっていったような気がします。高校１年の時に担任の先生から「最近調子いいね。このまま東大行けば？」と勧められて、東大を意識するようになりました。

■ゲームもマンガも全部売った

受験勉強に集中できるように、ゲームやマンガは全部売りました。ネット上のゲーム仲間にも「これから３年間、ゲームはできません」と伝えて。スマホとテレビのリモコンは親に預けてしまいました。

季節講習に参加するぐらいで、予備校には通いませんでした。いまって受験勉強の無料情報がネットにたくさん落ちているんですよね。それをもとに、高２までに英語・数学を大体終わらせてしまい、高３からは理科・社会に力を入れました。

東大は過去問と同じタイプの問題が多く出題されます。なので、数学は３０年、英語は２０年ほどさかのぼって過去問を解きましたね。「良問」と呼ばれる、とんでもない発想力が要求されるような問題はさっさと捨てます。入試には捨てる技術が必要。実際に合否を分けるのは、過去に使い古されてきたコテコテした問題なんです。

なかなかモチベーションが上がらない人には、勉強法の本を読むのもオススメです。ああいう本って書き方がうまいので、自分は神になれるんじゃないかっていうぐらいにモチベーションがググッと上がる。で、上がったらそういう本は１回しまって、勉強にとりかかっていただければ。

入試の不安を払拭（ふっしょく）するためには、徹底した準備が大事です。僕の場合は隣の人のシャープペンの音が苦手だったので、ユーチューブで試験会場の雑音を探して、大音量で流しながら勉強するようにしていました。お陰で、本番は一切気にせずに試験に集中することができました。

■自分って何？　知りたくて

東大に入ったらチヤホヤされるんじゃないかという、不純な気持ちがなかったと言えばウソになります。でも、実際はそうはいかず、彼女も全然できませんでした。モテるのはいつだって、球技の得意な細マッチョの男なんです。

そんなこともあって、入学後にプツリと切れてしまったというか。これまで「自分は勉強できるぞ」というスタンスできたわけですけど、周りを見たら僕なんかより優秀な人がたくさんいる。自分のとりえ、長所って何なんだろう。将来への不安もあって無気力状態に陥ってしまい、昨年、留年しました。

自分とは何なのかを知りたくて、今年の３月から「東大生の１日を５０円で買ってくれませんか？」という企画を始めました。レンタルおっさんとかレンタル彼女ってありますけど、僕の場合１時間３千円とかでは買ってもらえないだろうと思って、レンタル系の最安値を調べたんです。そうしたら、ホームレス小谷さんという方が１日を５０円で売っていた。それで僕も５０円に決めました。

企画を始めて３週間ぐらいして、「発達障害の子どもと数学の話をしてください」という依頼をお母さんからいただきました。小学３年生の男の子で、数学や物理の才能がすごい。お母さんは勉強しながらお子さんからの質問に答えていたのですが、とうとう自分の手に負えなくなって、僕のところに連絡をくださいました。

「１÷８１は」と聞くと、数秒で「０．０１２３４５６７９……」と返してくる。すでに中学数学を終えていて、「フェルマーの最終定理」についても質問されました。今回は答えることができましたけど、あと何年かしたらわかりません。僕が帰った後、その子はお母さんに「貴重な体験だった」と言ってくれたみたいです。小３の言葉遣いじゃないですよね（笑）。

これまでにいただいた依頼は１３０件以上。自殺未遂をした方やＪＫビジネスで働く女の子に話を聞いたり、ポーカーの世界チャンピオンと対決したり、ニューハーフの方とデートしたり。この企画がなかったらお会いすることのなかった人たちに、たくさん出会いました。

身に染みて感じたのは、多種多様な生き方があって、皆さんがそれぞれの人生を必死にがんばっているんだということです。留年する前までの甘えていた自分が、ムチ打たれるような思いでした。

■「童貞（どうてい）」Ｔシャツで渋谷に

５０円企画とは関係ないのですが、今年のハロウィーンは「童貞」と書かれたＴシャツを着て渋谷に行きました。僕はそれまで「高学歴」と書いたＴシャツを着てたんですけど、ヨッピーさんという知人のライターさんに童貞Ｔシャツで何かやってくれと言われまして。

それで、色んな仮装をした方と一緒に写真におさまって、どちらが目立つか勝負するという企画を考えて、「ハロウィンの渋谷、Ｔシャツに『童貞』と書くだけで１番目立てる定理」という記事にまとめました。会う人会う人に「頑張ってください」と言われましたね。

ＬＩＮＥの連絡先を渡したりもしたのですが、日本の女性からはほとんど反応がなくて、ちょっと傷つきました。その代わりに台湾・香港・ポーランド・カナダ・オーストラリアとか世界中からメッセージが届いて、ＬＩＮＥの通知がすごいことになりました。いつの間にか台湾の掲示板に僕の情報がさらされ、メディアで紹介されてしまったみたいです。

親は５０円のことも童貞のことも多分知らないと思います。まあ、バレたらバレたで仕方ないかなと。これからも「童貞高学歴の恋愛相談」とか、面白いことをどんどんやっていきたいですね。

行動を起こそうとする時に合理的な理由を求めすぎると、結局何もできない。どんな行動にも必ず何かしらのマイナスがあります。僕は大学に入ってからずっと、そのマイナスの方ばかりに目を向けてきました。でも、絶対的に正しい理由なんてない。そのうえでいま目の前のことをしっかりやっていくことが大事なのかなって。留年してみて、いまはそう感じています。